

平成21年度宮古群島病害虫発生予報第7号(10月予報)

10月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日 照 時 間
高い(多い)	70	40	20
平 年 並	20	40	40
低い(少ない)	10	20	40

(平成21年9月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	25.1	27.7	23.2	174.2	151.3

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

10月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

植付期および生育初期におけるメイチュウ類の防除対策

- a 9月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は3.5頭(前年6.6頭、平年5.6頭)と平年並であった。
- b 9月上旬の調査の結果、新植圃場の芯枯茎率は0.2%(前年0.3%、平年1.2%)と平年よりやや少なかった。
- c ふ化した幼虫は、苗の葉裏および葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯を起こさせ茎を枯死させる。
- d 生育初期の加害による芯枯防止のため、食入初期の幼虫を対象にした防除を行う。
- e 植付時および培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。

サキシマカンシャクシコメツキ(ハリガネムシ)の防除対策

- a 9月上旬の採苗圃等での掘取調査の結果、株あたり幼虫数は0.3頭であった。
- b 例年植付後に、本種による芯枯被害が見られる。
- c 幼虫は地下部(根・根帯・茎)を加害する。
- d 生育初期に加害されると、欠株や芯枯をおこす。
- e 植付時および培土時にメイチュウ類の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を施用する。

野その防除対策

- a 9月上旬の調査の結果、野そによる被害茎率は0.02%(前年0.6%、平年0.7%)と平年並であった。
- b 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- c 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- d 地域で一斉に防除することで、より防除効果が高まる。

2 マンゴー

栄養生長期におけるチャノキイロアザミウマの防除対策

- a 9月中旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマが多発していた。
- b この時期の不要な新梢は、本種の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして、施設外に持ち出し処分する。
- c 本種は水に弱いことから、灌水を兼ねて動噴で洗い流すと密度低減につながる。
- d 施設内外の除草を徹底する。

3 施設野菜(果菜類)

植付時の圃場管理について

- a 冬春期の野菜の植付時期は、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、ハダニ類、タバココナジラミ等の難防除害虫の発生が多くなる。
- b 防虫ネットは定植前に被覆し、施設内への侵入防止を徹底する。
- c 苗による病害虫の持ち込みをしないように注意する。
- d 植付時には品目に応じた粒剤を施用する。
- e 平成21年度病害虫発生予報第6号(9月予報)7～8頁参照。